

令和2年度「社会に開かれた教育実践づくり」研修会概要

～ふるさとを元気にする地域学校協働活動を考える～

令和2年度長崎県社会教育関係者等スキルアップ連続講座

日 時：令和2年8月4日（火）10：00～15：50

会 場：長崎県教育センター 本館4階 別館講堂

参加者：37名

学校教育と社会教育の関係者が会し、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の内容や重要性、地域コーディネーターの役割について理解すると共に、地域学校協働活動の具体的取組について考えることをねらいとして実施しました。

当初、58名の方に参加を申込みいただいていたのですが、コロナ感染症拡大の影響もあり、やむを得ず欠席される方もおられました。当日は、受付での手指消毒や換気、座席配置の工夫等、感染防止対策を行いながら、実施させていただきました。

【内容】

事業説明 「長崎県のコミュニティ・スクールについて」
長崎県教育庁義務教育課 指導主事 原 敏男

講 義 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について」
長崎大学大学院教育学研究科 准教授 畑中 大路 氏

講義では、以前、福岡県春日市のコミュニティ・スクールについて学ばれた御経験や今回実践発表をいただいた大瀬戸小学校コミュニティ・スクールの立ち上げ段階から関わられてきた御経験等を踏まえ、なぜ、今、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）が求められているのか、何から始めるべきか、予想される課題を解決しながら、どのように進めていけばよいのかなどについて、分かりやすい例を交えながらお話いただきました。

参加者からは、「事例がたくさんあり、いろんな方面から、コミュニティ・スクールを例えてあり、とてもわかりやすかった。」「教育が、学校が、街をつくるという話はとても興味深かった。」「何から始めるべきか、具体的に取り組むべき方策を知ることができ、勉強になりました。」などの感想が寄せられました。

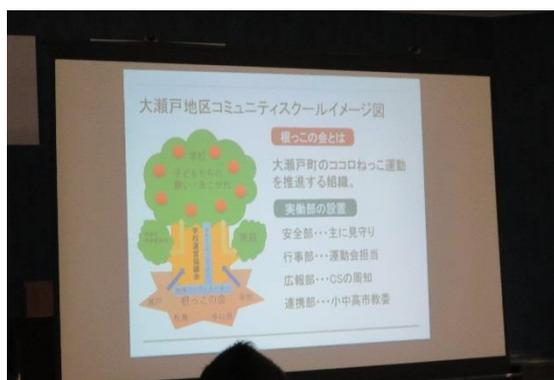


事業説明 「長崎県の地域学校協働活動について」
長崎県教育庁生涯学習課 課長補佐 西山 敏明

実践発表 「学びの出口を地域につくる」
～地域・学校を活性化させるのは人だ～

佐々木 義信 氏（地域コーディネーター）
竹口 健一郎 氏（学校運営協議会事務局）

発表では、コミュニティ・スクール立ち上げから3年目までの取組過程の中で、無理をせずに、課題を少しずつ改善しながら進めてこられた様子やコミュニティ・スクールの良さ、そして、今後の学校と地域との連携の目指すところなどについて熱く語っていただきました。



参加者からは、「子どもたちの笑顔のためという目標、みんなの方向性がしっかりしているので、今後の発展が楽しみです。」「結局、活性化のもとになるのは、人の熱（ネツ）だと納得。」「地域の方たちにどれだけCSを浸透させて共通の思いで子どもたちを育てていくか、そこがとても重要だと思います。じっくり時間を掛けて、準備することが大切だと思いました。」などの感想が寄せられました。